

技術力の向上のために

1. はじめに

「日本を元気に」「建設産業に活力を」など、前向きな言葉が私は大好きです。前向きな言葉を多く発していると、現実もまた前向きに好転していくという経験はどなたも持っておられるのではないのでしょうか。状況が厳しいときこそ心の底から前向きな言葉を発信したいものです。

建設に携わる技術者にとって、苦しいときほど拗って立つべきは、自らの技術力であり、建設産業が行き詰まったときに、パラダイムを変えてこれを打破するのは、確かな技術力に支えられた技術開発であると思います。

この技術力は、一朝一夕に培われるものではありません。どうしたらこの技術力を身につけることができるのでしょうか。

2. 「技術力向上」は昔からの課題

私が役所に入ったのは今から30年以上も前のことですが、その時既に技術力の低下が問題となっており、先輩の方々からいろいろご指導を受けました。

「技術は盗め」という言葉に象徴されるように、当時、技術力は自らの努力によって勝ち取るものという考え方が主流であった気がします。これは今でも技術力向上のための基本であることに変わ

りはありません。ただ、実際には（親切な先輩に恵まれた幸運もあったのでしょうか）具体的なお指導やご助言を多くいただきました。そのおかげで効率的に技術力を取得することができました。

しかし、今の職場における状況はどうでしょうか。公務員はその数が激減し、周りに技術力を高めてくれるような年代の近い先輩は少なくなりました。そのため、仕事に追われ勉強する時間は少なくなり、技術に対して議論する相手も身近に少なくなりました。加えて、必要な技術は多様化し、身につけなくてはならない技術の量も質も増えました。

これでは、個人の努力による技術力の取得には限界があります。自らの努力により技術力を身につけることが基本であることに変わりはありませんが、技術力を身につけるための環境整備も、身につけさせる側としては重要となってきています。

3. 技術力の向上のために①

それでは、技術力を向上するための私なりの留意点をいくつか示したいと思います。

まず、新しい技術に対峙したら、やはり場数を踏むことが重要だと思います。基準やマニュアルをよく勉強して実践に使ってみるとさらによく理

国土交通省 大臣官房技術審議官

やま だ くに ひろ
山 田 邦 博



解できるでしょう。さまざまな講習会や現場視察に積極的に参加するのもいい方法だと思います。

次に、ある程度蓄積が出来たら、自分なりに頭の中で体系化することが必要です。その技術の底流に流れる思想は何か。その歴史的背景はどのようなものか。今と違って、鉄やコンクリートなどの資材があまり豊富ではなく、人件費が安い時代の技術なのかもしれません。とにかくスピードのみが重視された頃の技術かもしれません。

そのような体系化が進んだら、今度は自分なりの技術的思想を基に、各技術を評価してみることも重要です。例えば、今は資材よりも労働力の方が希少価値があると考えたら、この技術はこう変えた方がいいといった評価です。そのような評価を基に、ぜひ技術をより一層発展させていくといいと思います。

技術とは、日本語として意味が「分る」という第一段階から、体系的に「解る」という第二段階を経て、その長所短所を「話せる」という第三段階に至って初めて自分のものになったということが出来るのではないのでしょうか。

4. 技術力向上のために②

次は例えば組織として、各個人にどのように技

術力を身につけてもらうかという点です。

繰り返しになりますが技術力は、原則自らが勝ち取るものということは今も変わっていないと思います。ですから、各個人には技術の持つ無限の可能性、技術によってこれまでの枠組みを超えたときの喜びなどに気付かせてあげてほしいと思います。

マニュアル通りに設計しようとしている人に、本当にその方法しか答えはないのか、たまには検討する時間を与えてあげられないのでしょうか。より安く、より短い工期で目的物が完成出来たら、きっと楽しいと思います。

また、自信を持ってもらうことも重要です。若手技術者には、ある期間同じ技術のみに携わり、たとえ狭い範囲でもその技術の一定のプロに早くなって欲しいと思います。技術を会得する術をいち早く身につけてほしいのです。

5. おわりに

いろいろ書いてきましたが、短期的には、技術力の向上と、業務の効率的遂行はトレードオフの関係にあるのは事実だと思います。長期的な視点を持ち、勇気を持って無駄な業務を廃止し、技術力の向上のための時間を生み出したいものです。